

「北の桃源郷」をめざしたももづくり

ももの苗木定植のポイント

最近、県内各地でももの幼木の枯死が多発しています。主な原因は「凍害」と考えられます。凍害に遭いにくい健全な樹を育てるには、充実した苗木の確保と、適正な定植・管理が重要です。

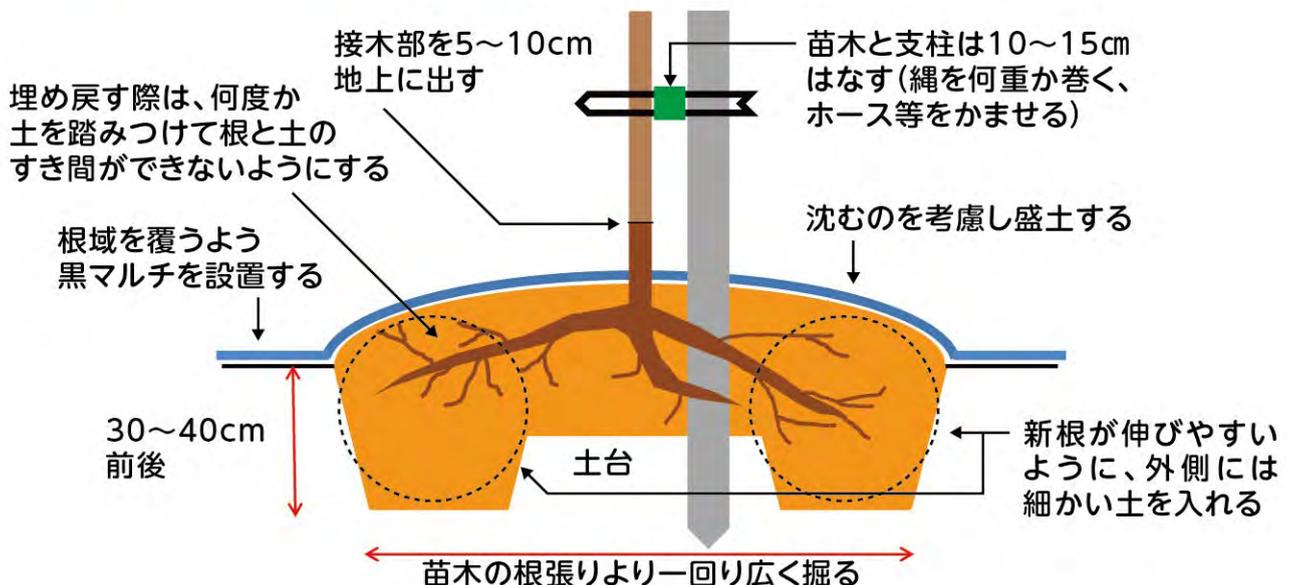
定植のポイント

～1年目からしっかり生育を確保する事が凍害防止の第1歩!～

～ 改植時の園地の条件整備 ～

- ① 改植の場合は、前作の抜根を徹底するとともに、完熟堆肥を投入する。
- ② 暗きよ、明きよの設置など、排水対策を講じる。
- ③ 水田転換園の場合は、必ず耕盤破碎を行う。

- ① 春植えを行う。 ※定植前に一晚吸水させる
- ② 植え穴は広めに掘る。
- ③ 土台をつくり根が下方に伸びるようにする。
- ④ 傷んだ根を切り取って植える。
- ⑤ 掘り上げた土に、堆肥、土壌改良剤をよく混ぜて埋め戻す。
- ⑥ 支柱を立てて苗木を結束する。 ※支柱は苗木の北側に立てる。
- ⑦ 十分に灌水し、黒マルチを設置する。
- ⑧ 1/4～1/3程度切り詰める。 ※芽が欠けていない所で



～ 秋に入手した苗木の保管方法 ～

- ① 冷蔵庫で保管する場合は、根が乾かないようビニール袋などに入れる。さらに、直接冷風が当たらないように注意する。
- ② 屋外で保管する場合は、排水の良い場所に仮植し、野ねずみ・野うさぎの被害を防ぐため、金網で覆う。

定植後～幼木(2、3年目)の管理の留意点

～3年目くらいまでは枝を多めに残し、しっかりした樹づくりを行う～

- ① 定期的に灌水を行い、初期生育を確保する。

※特に春先(梅雨期まで)・夏場の乾燥時

- ② 縮葉病、シンクイムシ類、せん孔細菌病の防除を徹底する。

- ③ 冬の剪定量を多くしない。

大きな切り口を作らない。

小さい切り口にも必ず「ゆ合剤」を塗る。

※幼木時は、あまり樹形にこだわらず樹を拡大する。

※徒長枝は、夏場にねん枝や短裁

などを行い、太くならないようにしておく。

(低すぎる枝や側枝基部の背面枝等)

- ④ 成らせ過ぎに注意する。

※3年目位までは樹づくりを優先する。

- ⑤ 凍害防止資材を被覆する。

(商品名:アルミプチ)

※被覆期間は12～3月



切り口からの枯れ込み



「アルミプチ」の被覆

・2重になるように巻き、水が入らないようしっかりしぼる

注意



肥料袋やビニール袋は、凍害を助長するので使用しない。